

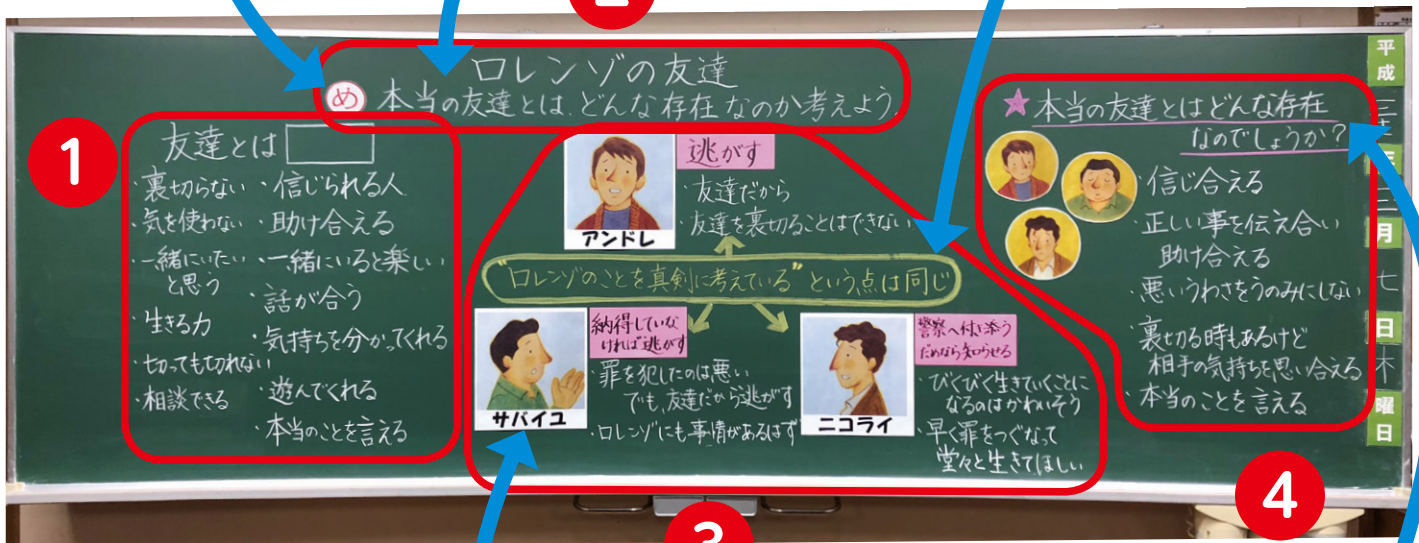
ロレンゾの友達 (6年)

板書の工夫

「めあて」など、毎授業で使う学習用語は、あらかじめ記号 (アイコン) として提示できるものを用意するとよい。

教材名とめあての提示。

大事な言葉はカラーチョークを使ったり囲みをつけたりして目立たせる。



登場人物の顔を挿絵として準備しておくことで、それぞれの立場や考えを想起しやすくする。

主発問にはアンダーラインを引いて目立つようにする。また、挿絵を見せながら「これって本当の友達？」などと揺さぶりの発問も入れる。

板書の流れ

- 1** 本時の内容項目に関連する「友達とは〇〇」という問いかけを行い、価値への意識付けをする。質問をして挙手で発表させると子どもは緊張してしまう。質問をした後に席が近い子どもどうしでざっくばらんに話をさせてから発表させることで子どもたちの本音を引き出し、それを板書することができる。より気持ちを学習に向かわせることができる。【5分】
- 2** 子どもの「友達とは〇〇」に対する考えを聞き出したところで、本時の「教材名」と「めあて」を提示する。【2分】
- 3** 教科書の前半部分（ロレンゾが約束の時間に来なかった場面まで）を範読して、登場人物3人のそれぞれの立場や考えを確認する。子どもたちの発言の中の言葉をキーワードとして抜き出す。自分だったら3人のうちの誰と同じ考えかを挙手させ、それぞれの考えを発表させる。そのうえで「悪いことをしているのに逃がすのって本当の友達?」「友達をろうやに入れることができる?」など揺さぶりの発問をすることで子どもたちがさらに考えを深められるようにする。また、教材の内容の中で核となる部分は、カラーチョークを使って目立つように板書する。【20分】
- 4** 教科書の後半部分（警察から連絡が来た場面から）を範読して、主発問をする。めあてに対するまとめにもなるので、子どもたちに主発問に対する考えを3～4分でワークシートに書かせる。席が近い子どもどうし2～3分発表し合った後に全体で発表させ、キーワードとなる言葉を板書し全体で共有する。【18分】

板書心得

- 『文字は心を表す』をモットーに、丁寧にラインが歪まないように書く。
板書を見てノートをとる子どもたちが丁寧な文字で書けるように、お手本である黒板の字は丁寧に書く。また、ラインが歪まないように意識しながら書く。
- 習った漢字は使う。
国語以外の授業でも、既習の漢字はなるべく使うようにし、子どもたちにも意識して書かせるようにする。